

Oracle ソフトウェアのインストール

手順. 1 ファイルのダウンロード

Oracle ソフトウェアのダウンロード・サイト

<http://www.oracle.com/technetwork/jp/indexes/downloads/index.html>

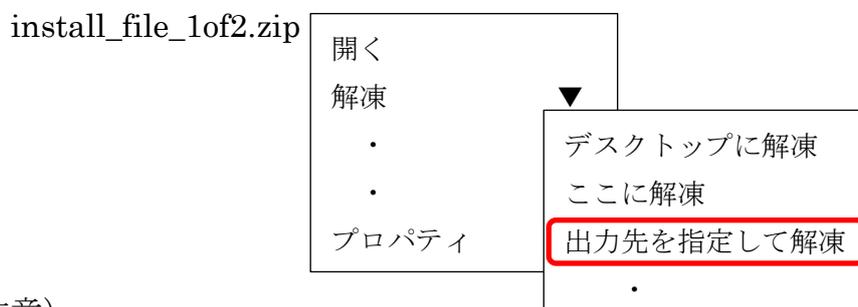
ここから、Oracle ソフトウェアのダウンロードを行う

通常、ダウンロード・ファイルは2個に分割されている

- ・ install_file_1of2.zip
- ・ install_file_2 of2.zip
- ・ zip ファイルのダウンロードと解凍は同一ディレクトリで行う

手順. 2 ファイルの解凍

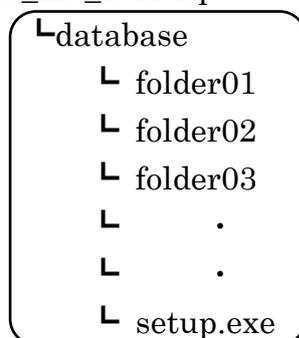
手順1.ダウンロードしたファイルを右クリックして、解凍 → ここに解凍



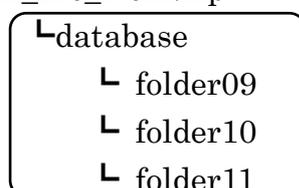
注意)

2つのダウンロード・ファイルを解凍すると、それぞれに database という名前のフォルダが作成されるこの2つのフォルダを合算して1つのフォルダを作成する

install_file_1of2.zip



install_file_2 of2.zip



→ 1つのフォルダにまとめる

手順. 3 インストール (Oracle ソフトウェア)

database フォルダの中にある setup.exe を起動する

Oracle Database のインストール 画面

● 基本インストール
Oracle ベースの場所
Oracle ホームの場所
インストールタイプ
 初期データベースの作成
グローバル・データベース名
データベース・パスワード
○ 拡張インストール

次へ

→ここに、チェックを入れると、Oracle のインストール時に
Oracle インスタンスの生成も、続けて行われる

ここでは、チェックを外す

手順. 4 リスナーの作成

インストールされたアプリケーションの中から「Net Configuration Assistant」を起動
「スタートメニュー」 → 「プログラム」 → 「Oracle-OraDb11g」 →
「コンフィグレーションおよび移行ツール」 → 「Net Configuration Assistant」

● リスナーの構成
○ ネーミング・メソッドの構成
○ ローカル・ネット・サービス名構成
○ ディレクトリ使用構成

次へ



● 追加
○ 再構成
○ 削除

これ以降の処理は、デフォルト値のままでよい

次へ

手順. 5 Oracle インスタンス生成

ステップ 7 / 15 データベース・ファイルの位置

作成するデータベース・ファイルの位置を指定

テンプレートのデータベース・ファイル位置を使用

すべてのデータベース・ファイルに対して共通の位置を使用

ローカル・ネット・サービス名構成

Oracle Managed File の使用

インスタンスで使用する
SYSTEM 表領域などの保存
先ディスクを指定



ステップ 8 / 15 リカバリで使用するファイルの作成位置指定

データベースのリカバリ・オプションの選択

フラッシュ・リカバリ領域の指定

フラッシュ・リカバリ領域

フラッシュ・リカバリ領域サイズ

アーカイブ化

データベース（本体データ）の作成 DataBase Configuration Assistant ツール

DataBase Configuration Assistant の起動方法

[スタート] ボタン → [Oracle - OraDB11g_home] →

[コンフィギュレーションおよび移行ツール] → [DataBase Configuration Assistant]

設定内容

データベース識別情報（ステップ 3/15）

グローバル・データベース名：サーバ外部から見た時の名前

例) ora2.system3support.jp

SID： 同一サーバ内に役割別に D/B を 2 つ構築させた
ときのインスタンス区別用の識別名

例 ora2

管理オプション（ステップ 4/15）

- Enterprise Manager の構成 ← EMDC (Enterprise Manager Database Console) 画面の表示を行う
- ローカル管理用に Database Control を構成

リカバリ構成（ステップ 8/15）

フラッシュ・リカバリ領域の構成指定

- : フラッシュ・リカバリ領域の指定

フラッシュ・リカバリ領域ディレクトリ：

ORACLE_BASE\flash_recovery_area\ディレクトリ

フラッシュ・リカバリ領域サイズ : 2048 (MB)

- : アーカイブの有効化

初期化パラメータ（ステップ 10/15）

【メモリー】 タブ

- 標準

メモリー・サイズ (SGA および PGA) : 818 (MB)

- : 自動メモリー管理の使用

- カスタム

メモリー管理： 自動共有メモリー管理

SGA サイズ： 614 (MB)

PGA サイズおよび)： 204 (MB)

自動メンテナンス・タスク (ステップ 12/15)

: 自動メンテナンス・タスクの有効化

※ 自動メンテナンス・タスクとは、オプティマイザ統計収集やプロアクティブ・アドバイザ・レポートなどで、Oracle システムの実行を効率化させるための処理です

データベース記憶域 (ステップ 13/15)

記憶域の設定 (使用する物理ファイルの名前と容量)

制御ファイル

データファイル

REDO ロググループ

作成オプション (ステップ 14/15)

: データベースの作成

: データベース・テンプレートとして保存

: データベース作成スクリプトの作成

データベース作成完了画面

データベースの作成が完了しました。

データベース情報

グローバル・データベース名	ora2. system3support.jp
システム識別子	ora2
サーバ・パラメータファイル	C:\Administrator\product\11.1.0\db_1 ¥database¥spfile<SID 名>.ora
Database Control の URL	http://<サーバ名> : 5500/em

↓

OEM (Oracle Enteries Manager) 画面の URL

パスワード管理

↓

ユーザーのパスワード設定画面へ

追加したデータベース SID への OEM (Oracle Enteries Manager) 画面へ接続するためのポート番号は、この画面に表示される。

デフォルト : 1 個目 1158

2 個目 5500

パスワードの有効期限変更

インスタンスを作成したならば、SYS および SYSTEM ユーザーのパスワードの有効期限を変更しておく

パスワードは、ユーザーに紐付けられたプロファイルにて管理されている

SYS および SYSTEM ユーザーには、デフォルトでは DEFAULT プロファイルが紐付けられている

【パスワード有効期限の変更操作手順】

手順 1.

DEFAULT プロファイルをコピーして、新たなプロファイルを作成する

手順 2.

作成した新たなプロファイルのパスワードの有効期限を UNLIMITED に変更する

手順 3.

SYS および SYSTEM ユーザーに、作成した新たなプロファイルを紐付けるように変更する

もしくは、

```
alter profile "<プロファイル名>" limit password_life_time UNLIMITED;
```